

街を行く

第151回 長岡 Nagaoka

偉人と花火



山本五十六の生家と花火ミュージアム



新潟県の長岡まで足を延ばしました。今日まで長らく訪ねあぐねていた街です。

じつは新潟には湯之谷温泉郷「栃尾又温泉」（ぬるいラジウム温泉で長時間浸かる）に毎年訪ねており、どちらかといえば馴染みです。しかも長岡は温泉のある魚沼と新潟市内を行き来する道すがら（実際には魚沼のすぐ北）にあります。それでもこの街に立ち寄りなかったのは、ある二人の偉人の足跡を、じっくり腰を据え辿ってみたいという思いがあったからなのです。

その偉人とは、山本五十六と河合継之助です。ともに武人（軍人と武士）であり、偉人と呼ぶことに抵抗感を抱く方もおられるかも知れません。しかし、長岡では真正正銘の偉人なのです。

山本五十六は、ご存じの通り大東亜戦争当時の海軍、連合艦隊司令長官。戦争を起こした軍部の首脳であり、開戦ぎりぎりまで戦争に反対していた最高指揮官でもあります。

河合継之助は、長岡藩の軍事総督として、非戦中立の志とは裏腹に戊辰戦争では最後まで兵を率い新政府軍（官軍）と戦い抜いた悲運の武士です。武人、偉人、悲運という共通項を持つ二人を生んだ長岡。この地の風土が彼らにどう影響を及ぼしていたのでしょうか？当然ながら、場所を一遍訪ねたぐらいで分かるはずはないのですが、二人の背景をこの街を起点に紐解きたくてうずうずしています。その意味から今回の訪問は、そのはじめの一步として少し満足できました。

チャンスがあればまたご報告したいと思っています。

長岡はそのほか、総理大臣を務めた田中角栄の選挙地盤であり、放浪画家山下清の切り絵「長岡の大花火」でも有名。小生、花火は生で観ませんでしたが、道の駅「長岡花火館」にある花火ミュージアムのスクリーンで疑似体験し、不思議に思っていた打上げ花火の煙火玉をみて、華やかな光を織りなす

デザインの秘密がわかりました。

今回は、街をぶらぶらと歩くという本来の「街を行く」と少し違いましたが、大きく街全体を紹介できた点でよかったかも知れません。連載内で何より忘れてはいけないのは“食”ですが、へぎそばや笹団子、アユやイワナの炭火焼きをたらふく食べました。

イワナと雪室で寝かした地酒のコンビは最高でした。これが幸せというものですね！

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。